

Educo

地球時代の教育情報誌 **エデュコ**

NO.4 / 2004年 **春**

国内における世代間の異文化理解が
大切だと思います。



◎地球とながよしインタビュー
アフガニスタンの難民と共に 中村 哲 ②〜③

知っておきたい教育NOW
①自ら本に手を伸ばす 子供を育てる 北原保雄 ④〜⑤
②学校選択制の導入を 教育の活性化にどう生かすか 葉養正明 ⑥〜⑦

有田和正のおもしろ授業発見! ④ ⑧ ⑨

3R学習へのご招待 井内慎男 ⑩〜⑪

インフォメーション 北から南から ⑫〜⑬

BOOK REVIEW ⑭ / 「知」を創る学習指導 その3 角屋重樹 ⑮

COLUMN ほっとな出会い 増田明美 ⑯



地球となかよし
インタビュー

アフガニスタンの難民と共に 中村 哲先生 (医師・ペシャワール会現地代表)

病気は後で治せる、まず生きることが先決——中村医師は早
越に苦しむアフガニスタンの人々と共に井戸を掘り始めた。
医療活動のかたわら掘りあげた井戸の数は一〇〇〇本。現地
の人々と苦しみを共にし、戦乱・疾病・苦難の痛みを癒す中
村医師の献身的な活動に対して、2003年度マグサイサイ
賞が贈られた。

◆このたびは、アジアのノーベル賞とい
われるマグサイサイ賞(平和・国際理解
部門)の受賞おめでとうございます。

ありがとうございます。ほくがもちろ
ていいのかなという気持ちはありまし
た。現地のPMS(ペシャワール会医療
サービス)や二十二年間、物心両面で支
えてくれた国内のペシャワール会員一
千人の代表のつもりでいただきました。

◆これまでの現地での活動のなかで、最
も苦労されたことは何ですか。

一通りいろんな苦労をしましたが、な
かでも難しかったのは人間関係の調整で
す。マグサイサイ賞で、平和・国際理解
賞といじくも言っているように、いか
に他の人を理解するか、そして一緒に
い仕事をしていくかには非常に神経を使
います。それは現地の人とだけでなく、
日本人同士でもそうです。一〇〇人い

ば一〇〇の考え方があって、それを乗り
越えて「これは誰にとってもいいこと
ある」と理解を得て何かをするには、
かなりの努力と我慢がいります。また、
こちらの考え方が間違っていたり、偏見
があったりもするので、自分自身を調整
することもあります。

現地はいろいろな民族を抱えていて、
政治的な考えや風土・習慣が随分違う場
合があります。日本といういわゆる進歩
した国と、現地の近代化されていない社
会、このギャップを埋めるのが大きな仕
事だったと思います。

◆医療活動で現地に向かわれたのに、井
戸掘りをされたのはなぜですか。

もちろん、医者として患者一人一人を
助けたいことは大切ですが、現地で考
えなきゃいけないのは「なぜ病気になる
のか」「なぜこんなに衛生状態が悪いのか」
ということ、やはり医療人としては清

潔な水を確保することを最優先に考え、
そう動かざるを得なかったんです。日本
では豊富な水があつて、水利土木の専門
家もいます。その基礎の上に我々の生活
や医療が成り立っています。しかし、現
地ではまずその基礎の部分か
ら始めなくちゃならな
いというのが実態でし
た。

最初はボーリング
機を使うことを考
えましたが、現地で機
械をどうやって運搬す
るかという問題にぶつ
かります。貧しい国なので、
道路もほとんど舗装されていま
せん。また、電気もありませんし、メン
テナンスのできる人もいません。

そこで、現地のやり方に沿ったかたち
で援助するのが最もいい方法ではないか
と考えました。結局、彼らには手掘りが
一番分かりやすかつたんです。それに当
時は水位がどんどん下がっていて、ボー
リングはチューブを入れるだけですから、
もし井戸が枯れた場合は再生できません。
ところが手掘り井戸だと、水位が下がっ
ても、さらに数メートル掘り下げること
は可能です。中には七十や八十メートル
というのがあります。だから、住民の側
から手掘りにしてくれと、わざわざ言っ
てきた地域がほとんどでした。



中村 哲先生 プロフィール
1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒。
国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタ
ン北西辺境州州都のペシャワールに赴任。
ハンセン病を中心としたアフガン難民
の診療に携る。PMS(ペシャワール会
医療サービス) 総院長、ペシャワール
会現地代表。2003年度マグサイサイ
賞(平和・国際理解部門)受賞。
主著『ペシャワールにて』『医者
井戸を掘る』(以上、石風社)、
『アフガニスタンの診療所
から』(筑摩書房)など。

◆「緑の大地計画」という水路づくりにも
取り組まれていますね。

アフガニスタンの難民の大半は、早越
難民です。ところが、政治や戦争の問題
ばかり取り上げられて、現地の人々が本
当は何に困っているのかは日本にほとん
ど伝わりません。私たちがオレーショ
ンしてアフガン東部、南部、西部では
早越が人々を一番苦しめていて、一〇〇
万人以上がパキスタンに逃れています。
それを無理に帰しても砂漠化した場所
生活はできないので人々は大都市に流れ
これが治安悪化の原因になっています。
食糧のために何らかの資金が必要ですが、
みんなが職につけるわけではない。そこ
でまた不安が募るといって悪循環です。
以前、UNHCR(国連難民高等弁務
官事務所)が一〇〇万人の難民のうち一

七〇万人を帰したという、その後の帰還
計画で、さらに一八〇万人を帰すと発表
しましたが、数字のつじつまが合わない
んですよ。つまり帰しても生活ができな
いのでまた戻ってくるからなんです。だ
から難民帰還計画を延々と続けても、彼
らが元の土地で生活できる条件を整えな
い限り、難民は減りません。

また、難民の死亡者はほとんどが子ど
もです。一番多い死亡原因は、栄養失調
状態から脱水状態になり、汚い水を飲ん
で赤痢などにかかってしまっケースです。
これを考えても、まず清潔な飲料水を確
保し、それから十分に食べられるように
することが必要なんです。

アフガニスタンは、国民の九割前後が
農民だといわれています。農業は基本的
に自給自足ですから、たとえ隣町が減び
ても、自分さえ耕しておけば生き残れる
という世界です。つまり彼らはほとん
ど農業や土地に対する愛着が非常に強い
わけで、だげどやむを得ず難民化してい
る水引いて十分食べられるようにすれば、
みんな土地へ帰ってきて耕し始めます。
だから医療の立場から言っても、診療
所を一〇〇つくるより、十分に潤せる用
水路を一本つくった方が犠牲者を減らす
ためには早道なんです。もちろん、人間
の命の尊さは数だけではありませんが、
最低限の生きていく条件があつて、その
上に医療は成り立っていきます。そう考
えると、診療所の機能は一時拡大を停止
してでも、「緑の大地計画」に集中すべき
だというのが私たちの結論なんです。

◆現地住民のための国際協力とは、どう
あるべきだとお考えですか。

まず、現地にとって今本当に必要なも

のは何かということを知ることです。そ
のためには、そこに住んで生活してい
るおじさん、おばさんに聞くのが一番い
んです。日本でも田舎もあれば都会もあ
るし、寒冷地もあれば温暖地もあり、地
域によって考え方も違えば必要なもの
も違ふはです。まさか沖繩にラッセル車
を贈るなんてことはしませんからね。よ
そ者が来てこれかいいと押し付けるもの
では決してありません。ここに国際協力
というときの基本的な問題があるとい
う気がなりません。現地の人々が何を
考えていて、何を欲しているのかを汲
み、そのことが大事だと思えます。そのこ
とをほくは「現地主義」と言っています。

私たちが往々にして、一部の人の意見
からその国の姿やイメージをつくってし
まうことがあります。例えば「アメリカ
は戦争好きでとんでもない国だ」とい
う批判がありますが、決してアメリカ人
みんなが戦争好きというのではないわけ
ですから。その国の実情を知るには、限
られた人々の発言や材料でその国を判断
してはいけないという気がします。これは
アフガニスタンだけでなく、他の国にも
言えることではないでしょうか。

やって自分と違った言葉を使い、違った
考え方をする人がいることを子ども
たちから知っておくことは大切なことだ
と思えます。

ただそこで問題なのは、自国の文化を
大事にしていけないと自己紹介もできな
いし、異文化交流もできないということ
です。この点を真剣に考えるべきだと思
います。日本としてのアイデンティティ
というか、「我々は日本人だ」という同一
性がどこにあるかということをしっ
かり考
えなければいけないと思えます。

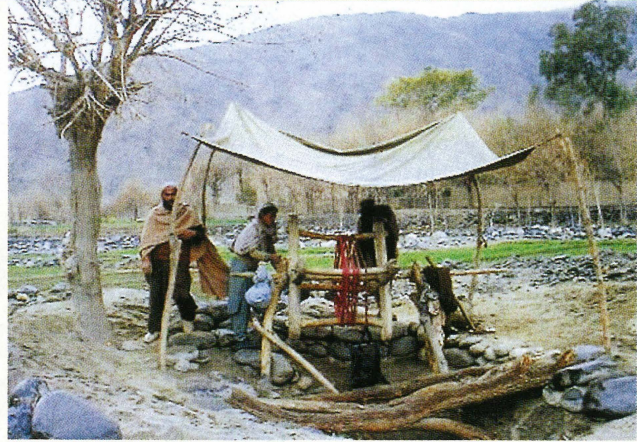
日本人はよく「宗教心がない」とい
われますが、日本人としての道徳心は昔か
らあるわけですから。その元は、お寺にお参
りするなどの日本の伝統的な生活の中
で培われ、無意識に定着しています。我々
は神社の境内で小便しようとは思いま
せんよ。そういった培われた文化が崩れ
つつあるというのが今の日本の実態で
はないでしょうか。

そういう伝統や文化を、若い世代は
「古臭い」といって、一方、古い世代は「こ
の頃の若いもんは」と嘆いている。これ
では本当に日本文化の継承はなくなりま
す。日本人が古来育ってきた伝統や道徳
的な考え方を大切にしないと、やがて日
本人は国籍不明になり、異文化理解ど
ころか、自国と他国との違いも分からな
くなるということになりかねません。国内
における世代間の異文化理解が大切だ
と思えます。

◆今、小・中学校の「総合的な学習の
時間」などで、国際理解や異文化理解の学
習が行われていますが、

私にも小学校から大学までの子どもが
いますので、学校でそういう活動が行わ
れていることは聞いています。韓国人の
が来るという簡単なハンダ文字や韓
国語を覚えたり、英語を覚えたり。そう

■ペシャワール会
中村医師のバキスタン・アフガニスタン
での医療活動を支援する市民団体。
(事務局) 〒810-0041
福岡市中央区大名1-10-25
上村第二ビル307号
電話 092-731-1237
FAX 092-731-2337



●伝統的な井戸の手掘り